

自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2014. 2. 16 No. 8

北海道ボランティア・レンジャー協議会

野幌森林公園(野幌原始林)

野幌森林公園は広大な石狩平野のほぼ中央の野幌丘陵にあり江別市、北広島市、札幌市にまたがる大都市に隣接した平地林として貴重な森林で、その面積は2,053haである。明治2年に北海道に開拓使設置、蝦夷地を北海道と改称したころの森は広葉樹と針葉樹が混在する鬱蒼とした原始林であった。1874年(明治7年)に5,607haが官林に指定されたが、開墾の進展に従ってその面積は縮小した。1899年(明治32年)札幌・江別・広島村・白石村の町村制実施に伴い、基本財産として分割方針だされる。これに対し関矢孫左衛門を中心とした地元民が時の園田安賢長官に分割反対請願をいたし、中止させた。もしも、このとき町村へ払下げされていたら今の森は消失していたであろう。1921年(大正10年)に森林のうち322ヘクタールが天然記念物に指定された。1942年(昭和17年)第二次世界大戦中には、軍需用として(艦船材)貴重な樹木が約1,000㎡が伐採された。1945年(昭和20年)に戦後の緊急入植として115戸2,198haが農地として開放された。これが戦後開拓の新野幌部落である。1952年(昭和27年)に特別天然記念物になったが、1954年(昭和29年)洞爺丸台風によって、約44,000㎡の風倒木の被害を受けた。そのままでの復旧保存は困難とされ、1959年(昭和34年)に部分的に指定が解除され、1962年(昭和37年)に一部を除いて特別天然記念物指定を解除された。1966年(昭和41年)北海道百年記念事業として、道立自然公園に指定された。また、大部分を国有林が占め、昭和の森自然休養林や鳥獣保護区に指定されています。野幌の森林は、自然林と針葉樹などを植栽した人工林からなっています。自然林は、落葉広葉樹を主体として常緑針葉樹が混生する針広混交林です。地形などの影響を受け、地区によって様相が変化します。太さが1mを超える大木も多く、大都市に近い森林としては驚くほど原始的で、開拓以前の自然の様子を知ることができます。

大きく育った自然林の樹木は、風や直射日光をさえぎり、水を保ち、実や落ち葉などをもたらします。そのような恵みによってさまざまな動物が暮らしています。然し、環境の急激な変化によアカショウビンは近年まったく姿を消して見られなくなったり、アオサギのコロニーが突然姿を消したりしております。いま人気のある蝦夷フクロウも見られなくなるのではないかと心配です。蝦夷フクロウの住む洞のある大木が次々倒れ、またアライグマの被害もあるのではないのでしょうか。一人一人の力は小さいがみんなでこの森を守り後世に残したいものです。(以上野幌森林公園に関するパンフレットを参考資料として作成)

観察会の予定

・「森の中で春を探そう」

平成26年3月23日(日) 10:00~12:30 集合場所 自然ふれあい交流館
雪解けがすすみ木々の芽も膨らみ始めます。小動物や鳥の動きも活発になる春です。
森の中で春を探してみましよう・・・

・「春の花を見つけよう」

平成26年4月24日(木) 10:00~12:30 集合場所 自然ふれあい交流館
ミズバショウやフクジュソウなど春一番の花や渡ってくる夏鳥たち森の動きを五感
で感じられるでしょう。

野幌森林公園内のツル（木本）について

2月の森は落葉樹が葉を落とし雪につつまれモノトーンの世界がひろがり、樹木の姿や樹皮が目立ちます。野幌森林公園では10種の木本のツル植物が記録されています。樹皮の違いでツルを比較してみましょう。

1. ツルアジサイ（ユキノシタ科）蔓紫陽花
多数の気根をだして、木や岩面を張って登る。皮目はなく、古くなると樹皮は縦にはがれる。多数の両性花と白い3～4枚のガク片がある装飾花をつける。
2. イワガラミ（ユキノシタ科）岩絡
多数の気根をだして、木や岩にからんで伸びる厚い樹皮をもつが、古くなってもはがれない。多数の両性花と白い1枚のガク片がある装飾花をつける。
3. ツタウルシ（ウルシ科）蔦漆
気根をだして、木の幹を這い登る。赤褐色の皮目ができる。秋の紅葉は見事だが人によってはかぶれる。
4. ツルウメモドキ（ニシキギ科）蔓梅擬
ツルは他樹に巻き付いて登るので林業では有害なツル植物、樹皮はへび模様。アイヌの人は内皮から繊維をとった。
5. ツルマサキ（ニシキギ科）蔓正木
常緑のツル、小枝は緑色。茎は気根をだしてはいあがる。
6. ヤマブドウ（ブドウ科）山葡萄
茎の変形した巻きひげをからませて登る。樹皮は黒味をおび古くなると縦にさける。果実は果汁やジャムに利用される。
7. サルナシ（マタタビ科）猿梨
ツルは他樹に巻き付いてのぼる、樹皮は白っぽく古くなるとはがれる。ツルは建築用の縄に利用した。
8. マタタビ（マタタビ科）木天蓼
ツルは他樹にからみながら這い上がりよく枝分かれし、花時に上部の葉の一部が白くなる。果実は食用となる。
9. ミヤママタタビ（マタタビ科）深山木天蓼
ツルは他樹にからみ、よく枝分かれる。枝の上部につく葉は白色になり、花が終わるころには紫紅色になる。
10. チョウセンゴミシ（マツブサ科）朝鮮五味子
ツルは他樹に絡まり林床内でよく茂る。果実は五つの味（甘、酢、辛、苦、塩）があることから生薬名が五味子となる。

※ 散策路で観察できるツル（木本）

1.



2.



3.



4.



5.



6.



7.



10.

